

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3571000276		
法人名	有限会社 山幸興産		
事業所名	グループホーム室積なかよかん		
所在地	山口県光市室積松原8-1		
自己評価作成日	平成22年11月26日	評価結果市町受理日	平成23年5月2日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成22年12月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

風光明媚な室積という環境の中で、海や松原に囲まれ季節を感じのどかに暮らしていけるよう支援しています。お花見に出かけたり、光ならではの行事(普賢まつり、梅まつりなど)に出向いたりします。その人にあった援助を考え、楽しく安全に暮らして頂けるようお手伝いしています。食事は3食とも配食を使わず、この台所で職員が作っています。旬の食材を使って、季節を感じるような食事作りを心がけています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自治会に加入しておられ回覧や広報紙が配布されたり、事業所が行なう防災研修等のチラシを配って地域の方の参加を呼びかけたり、地域の一員として日常的に交流しておられます。毎月送付する事業所便りには個別の通信欄を設けて、利用者一人ひとりに応じた報告を行っておられます。職員の異動も少なく、馴染みの関係が作られており、利用者・家族・職員間の信頼関係のもとに、利用者一人ひとりを大切にしたいサービスを提供されています。木材をふんだんに使い、洗濯物を干す広いウッドデッキや布団干しにも使われる居室毎のウッドデッキ、サンルームを備え、開放感と共にゆとりが感じられます。戸外の景色を楽しみ、外気浴や気分転換にも利用されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き生きと働いている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員の意見を取り入れた理念を掲げ、共有し実践につなげるようにしている。	地域密着型サービスとしての理念を職員で話し合い「安心できる穏やかな暮らしをめざし、自分らしく暮らせる為のお手伝いをします。出来るだけ自己決定できるように援助します。家族や地域との関わりを大切にします。」という、独自の理念を掲げ、管理者職員共に理念を共有し実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の途中で話をしたり、花壇の手入れをしていただいたり近所との交流はあるが、日常的にとはいってない。	自治会に加入している。事業所の花壇の手入れを地域の方の協力を得ている。散歩時の声かけ、事業所の研修会へ地域の人に参加してもらったり、中学生の福祉活動への協力、利用者が地域へのお祭りへ出かけるなどし交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活かしていない。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	昨年の外部評価後、改善したものがある。	評価の意義を理解し、職員全員で自己評価に取り組んでいる。前回の外部評価結果を検討し、内部研修の充実に取り組み、家族宛の事業所便りに個別報告蘭を設けるなど、具体的な改善に取り組んでいる。		
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度に入り、2ヶ月に1回のペースで開催されている。状況の報告や意見交換はされているが、サービス向上にはあまりつながっていない。	地区社協・民生委員・利用者・家族・地域包括支援センター職員・小規模多機能事業所職員等で、2ヶ月に1回開催している。運営や行事、外部評価結果等について報告を行ない、情報交換をして、意見や提言等をサービスの向上に活かしている。		
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者とは連絡は取っている。協力関係は築けていると思う。	日常的に、担当課、地域包括支援センターなどと連携をしている。研修会で情報交換を行って共通理解を深め、協力関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠は日中はしていない。やむを得ずする場合は家族に説明の上書面にて承諾を得ているが、日時の記録がされていなかった。	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。安全への配慮からやむを得ず拘束する場合は家族の理解を得ている。玄関の施錠はしていない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員、虐待について気を付けているのではないと思う。研修の機会をつくることは必要である。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個人では学んでいる人もいるが、全員ではない。必要と思われれば支援する。以前、成年後見人制度については途中まで進んだことがある。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面を提示して、説明を行っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を重要事項説明書に表示し、館内に掲示している。請求書送付時に意見・要望書を一緒に送っているが出されたことがなく、面会時に意見交換をしている。	面会時、毎月の請求書送付時に意見用紙を同封し、玄関に回収箱を置いて、意見や苦情の言いやすい雰囲気づくりに努めている。受付体制や処理手続きを定めている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議時に話し合っている。	毎月の職員会議等で意見を聞く他、日常業務においても意見や提案を聞き、運営や業務に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間に関しては、職員の協力があり助けられている。環境や条件に関しては、改善が必要な所もある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年よりは内部研修は増えているが、今後いろんな内容の物を行う必要がある。外部研修に関しては、該当する職員が少なく必要な物のみ参加している。	具体的な研修計画を立て内部研修を実施している。外部研修は職員の希望や必要に応じ受講の機会を提供している。受講後は伝達の機会を設け、職員間で共有している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「山口県宅老所・グループホーム協会」に加入しており、それを通じて協力したり勉強会に参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人との会話・行動の中から要望を聞き取り、職員会議で話し合って関係づくりに活かしている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に近況をお話ししながら、要望等を聴くようにして関係づくりをしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用が始まってからはある程度は出来ていると思うが、サービス開始時の対応は不足している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	助け助けられ、コミュニケーションを取りながら日々の暮らしを支え合っている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と協力しながら、外出や家族との関わりが途切れないようにしている。面会もばらつきはあるが多いと思う。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力も得ながら、馴染みの美容院へ行ったり、面会をお願いしたりしている。	馴染みの美容院の利用、友人・知人の面会、電話での会話の支援など、家族の協力を得ながら馴染みの関係が続くよう支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時にご利用者同士の関わりでトラブルにならないように間に入ったり、助け合えるような支援をしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を聞いたり、困難なときは職員会議やご家族との話し合いで検討するよう心がけている。	日々の関わりの中で、本人の気持ちを理解するように努めており、家族の意見や気持ちも尊重しながら、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人からや、ご家族から話をきいて把握するようにしている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや様子で身体的な状況の把握をしている。力量を把握し、それに応じた援助をするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意見、状態を見ながら職員会議の際に話し合い、日々のケアに活かせるよう計画の作成をしている。	利用者の思い、医師や家族の意見を参考にし、月1回のスタッフ会議で話し合い介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、3ヶ月毎の見直しや、状況に変化があった場合にはその都度見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録により把握し、計画作成や実践に活かすようにしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接の小規模多機能と協力したりしながら、幅広いニーズに応えられるよう心がけている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	まだまだ地域資源の活用が少ないので、どんどん支援に活かしたい。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診や必要に応じて通院介助により支援している。	協力医が2週間に1回往診している。必要に応じての通院は家族の協力を得ながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師や小規模の看護師に相談したり、主治医の指示により訪問看護を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはこちらの情報をサマリーで提供している。入院中の情報が得にくい(個人情報のため)退院時はケアマネや相談員との情報交換に努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	口頭でご家族の意向は聴いているが、これから重度化することを考えて、医療機関での治療の方針などを紙面にて確認するようにしたい。	利用者や家族の希望や意見、主治医の意見を聞きながら支援している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	日頃の状況や事故記録簿・ヒヤリハットを使って事故防止に備えている。初期対応の訓練を行ったが、もっと頻繁に行い全員がいつでも対応出来るようにしたい。	ヒヤリはっと・事故記録簿に記載し利用者一人ひとりについての事故防止について検討している。救急救命講習を実施している。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や台風の対策は出来ているが、その他の物については不十分である。地域との連携も不足している。	消防署・自治会の協力を得て、火災や台風に関しての訓練を実施している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「人生の先輩である」と言うことを念頭に置き職員全員が気を付けて対応している。	利用者を尊重して、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意見を聞いたり、無理なときは選択肢を用意し自己決定を促している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ希望に添うようにしたいが、対応出来ないこともある。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季候などに合わないときは声かけし、自分で出来ない方には支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備は衛生面も考えてあまりしてもらっていない。食事介助が必要で、一緒に食事をとることができない。下膳、台ふきなどは手伝って頂いている。	旬の食材や家族や職員の差し入れなどを利用して、三食とも事業所で食事づくりをしている。利用者は下ごしらえや配膳、後片付けなどできることを職員と一緒にしている。職員も同じ食事を食べながら、利用者が食事を楽しめるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂取量を把握し、その方に合った量や形状を提供している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがいや歯磨き、義歯洗浄剤、口腔ケアシート。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	その方に合わせたトイレ誘導を心がけている。オムツやパットは使用する種類や当て方を職員間で話し合い、少しでも減らせるようにしている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレへの誘導や声かけ等、一人ひとりに応じた支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動と水分補給に気を付けている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	自立での入浴者が少なく、二人対応での入浴の方が多いため、時間帯などをこちらで決めて対応することが多い。	入浴が楽しめるよう、一人ひとりに応じた入浴の支援を行っている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	高齢化し、日中の休息の必要性も増えそれぞれ対応している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容についてはファイリングし確認ができるようにしている。症状の変化があれば主治医に報告・相談している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞を読んだり、編み物をしたりと趣味を活かしたり、掃除・洗濯干しやたたみをお手伝い頂いて役割を担ってもらっている。	新聞を読んだり、編み物をしたり、隣接する小規模多機能事業所への訪問や散歩、家事などで張り合いのある日々を過ごしている。ミニ文化祭を行い、利用者や職員の作品を飾り、地域の人や家族にも見てもらい利用者の生きがいにつなげている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所への散歩や祭り、花見などへ行っている。家族に協力頂き、馴染みの場所への外出を援助している。	日常的に散歩を楽しみ自然とふれあっている。花見や市美展鑑賞、お祭り、外泊や馴染みの場所への外出の支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段はトラブルの元になるので金庫にて保管している。外出時に必要なときは持ち出し使えるようにしている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は書くことが難しくなっている。手紙や荷物のお礼や希望があれば電話してもらっている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	あかり、温度、湿度、音量には気を付けている。季節を感じて頂けるよう、居間の窓ガラスに時期に応じた飾りをしている。	居室兼居間の窓ガラスは広く大きく、一面に季節を感じさせる飾り付けをし、窓の外はサンルームとしてゆったり日向ぼっこしながら外の景色を楽しむことが出来る。ホーム入口には利用者の作品展示が出来るゆりの空間もあり、居心地良く過ごせるよう工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファやダイニングで、新聞を読んだり編み物をしたりして過ごしておられる。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や小物、仏壇を持ってこられている。	居室には馴染みの家具やテレビ、お仏壇、その他思い思いの小物が置かれ、壁には利用者の作品や誕生日のお祝いの品が飾られるなど、利用者一人ひとりの個性や希望に応じた居室作りが行なわれている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりをつけたり、大きなカレンダーをかけたりにして自立を援助している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム室積なかよん

作成日： 平成 23年 5月 2日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	緊急時のマニュアルはあるが、実際に対応できないことがあり職員も不安に思っている。	全職員が緊急時に対応が出来る	・外部の研修へ参加 ・それに伴う勉強会 ・わかりやすいマニュアルの作成	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。